

2022年10月28日
西日本旅客鉄道株式会社

サステナビリティボンドの発行について

当社はこのたび、サステナビリティボンドを初めて発行します。サステナビリティボンドにより調達した資金で「JR 西日本グループ中期経営計画 2022」で掲げたESGの取り組みを更に進捗させてまいります。

当社グループは、鉄道事業を核に、お客様の暮らしを支え、地域の社会、経済の発展に貢献することを使命としています。

鉄道の安全を基盤に、地球環境にやさしい鉄道の強みを活かしてカーボンニュートラルに貢献し、地域の豊かな自然や文化、そしてまちづくりを地域活性化につなげていくサイクルを通じて社会課題の解決に取り組むことで、私たちのめざす未来である「人々が出会い、笑顔が生まれる、安全で豊かな社会」を実現していきます。こうしたことがサステナブルな社会づくりにつながるものと考えています。

サステナビリティボンド発行により、将来世代を含め、誰もが生き生きと活躍し続けられる西日本エリアの実現に貢献する当社グループの取り組みを発信してまいります。

1. 発行概要

年限	10年（予定）
発行額	100億円（予定）
発行時期	2022年11月以降
資金使途	新型鉄道車両の導入
主幹事証券会社	みずほ証券株式会社 野村証券株式会社
ストラクチャリング・エージェント※	みずほ証券株式会社

※フレームワーク策定やセカンドオピニオン取得に関する助言等を通じて、サステナビリティボンドの発行支援を行う

2. フレームワークの策定および外部評価（セカンドオピニオン）の取得

当社はサステナビリティボンドの発行にあたり国際資本市場協会（ICMA）の「サステナビリティボンド・ガイドライン 2021」、「グリーンボンド原則 2021」、「ソーシャルボンド原則 2021」、環境省の「グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン 2022年版」及び金融庁の「ソーシャルボンドガイドライン 2021年版」に即した

サステナビリティボンド・フレームワークを策定しました。

また、本フレームワークに対して、株式会社格付投資情報センター（R&I）から、上記「サステナビリティボンド・ガイドライン 2021」等との適合性に関する外部評価（セカンドオピニオン）を取得しました。

3. 調達資金の使途

本フレームワークに基づき発行するサステナビリティボンドで調達する資金は、以下の新型鉄道車両の導入費用の一部として充当します。

○在来線車両（225系近郊形直流電車、227系近郊形直流電車、273系特急形直流電車）

[エネルギー効率の向上・省エネ化]

- ・エネルギー変換効率に優れたVVVF制御装置の採用により、ブレーキ時のエネルギーを最大限に回生し、電気エネルギーに換えることでエネルギー効率を向上
- ・室内灯LED照明の採用、LED式車内表示装置を設置し、省エネ化を推進

[安全性・快適性・利便性の向上]

- ・防犯カメラの設置による車内セキュリティ向上
- ・脱線などの異常を検知した際に、自動的に緊急停止・列車防護（近隣の列車を止める）する車両異常挙動検知装置の導入
- ・万一の衝突の際の客室・乗務員室の衝撃を吸収する構造の導入
- ・とっさの際につかまりやすい形状、オレンジ色調の吊手・手スリの採用（※特急型車両を除く）
- ・バリアフリートイレ、車椅子スペース、ドア開閉ランプといったバリアフリー設備の充実（※特急形車両は、従来より車椅子スペース数を拡大し、多目的室も設置）

○新幹線車両（山陽新幹線 N700S 新幹線電車）

[エネルギー効率の向上・省エネ化]

- ・走行抵抗を低減した先頭形状（デュアル スプリーム ウィング形）の採用や、次世代半導体「SiC素子」の駆動システムへの採用により、エネルギー消費が改善

[安全性・快適性・利便性の向上]

- ・ATCとブレーキシステムの改良により地震時のブレーキ距離を短縮
- ・大容量データ通信の実現により、詳細な機器データの取得・分析が可能となり、車両の状態監視機能が強化
- ・バッテリー自走システムを搭載することで、長時間停電時においてもお客様の避難が容易な場所まで自力走行が可能
- ・車椅子スペースの増設



225系近郊形直流電車



227系近郊形直流電車



273系特急形直流電車



N700S新幹線電車

今回ご案内の取り組みは、SDGsの17のゴールのうち、特に7番、9番、11番、13番に貢献するものと考えています。



JR西日本グループは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

